

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市広瀬文化センター						
2	指定管理者	公益財団法人 仙台ひと・まち交流財団						
3	指定期間	平成25年4月1日から平成30年3月31日まで						
4	施設の利用状況	《利用者数》29,434人（前年度比56.56%）						
		ホール	リハーサル室	楽屋1	楽屋2	楽屋3	合計	
		平成29年度	21,338	5,430	707	910	1,049	29,434
		平成28年度	40,102	7,439	1,456	1,372	1,671	52,040
		平成27年度	33,947	7,817	1,025	1,560	1,686	46,035
		※平成29年度は、舞台設備改修工事により、平成29年11月20日から平成30年3月31日までホール休館						
		《事業》						
		1 「第10回 ひろせサマーナイトコンサート2017 Candlelight Symphony&民俗芸能フェスティバル」 実施日 平成29年8月5日（土）17:30～20:00 来場者数 1,600名						
		2 「第4・5回 ひろせワクワクシアター2017」 実施日 1回目 平成29年6月17日（土）14:00から 来場者数 延べ850名 2回目 平成29年11月4日（土）13:00から 来場者数 延べ920名						
5	収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 107,682千円 (105,991千円) ・ その他市が負担した費用 283,482千円 (12,990千円) 《収入》 ・ 使用料収入 8,112千円 (11,264千円) ・ その他収入 109千円 (118千円) ()は前年度決算額						
6	利用者の声	《実施状況》 平成30年2月に利用に関するアンケート調査を実施した。平成29年4月1日から平成29年12月末までホール・リハーサル室を利用した団体・個人を対象とし、50の団体・個人より回答を得た。また、「ご意見箱」を受付に設置し日常的に利用者の声を把握した。						

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	設置目的に基づき施設管理が確立されており適切に施設管理がなされている。	S
II 施設の運営管理体制	仕様書及び事業計画書に定めてある内容を適切に管理されており、利用者の目線で施設の美化・修繕等を含め良好である。	S
III 施設・設備の維持管理	市主催の建物物点検研修会などに参加して自己研修しており、館内点検を行い簡易な修繕を行なうなど事故防止に取り組んでいる。また、維持修繕報告も所管課と打合せを行い適切に維持管理されている。	S
IV サービスの質の向上	受付窓口以案内表示を行なうなど利用者が気軽に相談・申し込みなどが出るように工夫しており、利用者アンケートを行ない利用促進に努めている。アンケートの評価についても良好である。特に中学・高校生などの利用促進取り組みを行なっている。	S
V 施設固有の基準	施設が複合施設(文化センター・市民センター・図書館の3施設)であり、それぞれの指定管理者と連携を深めるため、定期的な情報交換会を開催し、サービスの向上や危機管理体制の情報の共有化を図っている。	S

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み		取組み状況
1	サービスの向上	常日頃からお客様のご意見・ご要望が伺えるよう、「お客様のお声カード」をロビーに設置するとともに、施設利用のお客様にも毎回アンケート用紙を手渡し、ご意見・ご要望を伺いサービス向上へ反映できるようにした。
2	危機管理体制の強化	平成29年度は、消防法の定めに基づき、3回目の消防訓練を、平成30年3月7日(水)に仙台市宮城消防署と合同で実施しました。ホール設備改修工事のなか、大規模地震により、負傷が発生という想定を、迅速な応急手当、通報連絡、避難誘導など消防署職員と合同で行い、施設の危機管理体制の強化を図りました。
加点評価		A

四 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》	
<p>【施設の使用許可等について】 条例等を遵守し、市民利用施設予約システムの適正な運用に努め、公平・公正な取り扱いをし使用料の徴収及び収納についても仙台市の定める調定簿により確実に調定した上で、規定の領収書を交付いたしました。なお、お支払いいただいた使用料は、厳重に取り扱い、規定の払込書により翌日(翌日が金融機関休業日の場合はその直後の営業日)まで、仙台市指定金融機関に確実に払い込みをいたしました。また、毎月の使用状況及び使用料の徴収状況については、期日までに仙台市あて報告しました。</p>	
<p>【施設維持管理に関する取組み】 施設及び設備等の維持管理については、善良なる管理者としての注意義務を全うするとともに、保守点検や小破修繕を行い、施設及び設備等の良好な維持管理に努め、協定書に定める清掃などの業務については、別に定める仕様に基づき、適切に維持管理業務を遂行しました。 なお、平成29年度は、現在の顧客ニーズや最新技術・機能も踏まえ、これからのホールに何が最適であるかを考慮しながら仙台市と協議を重ねセンター最大の懸案事項である「仙台市広瀬文化センター舞台機構・舞台音響設備・舞台照明設備改修工事」を実施しました。施工にあたっては、仙台市関係各課、併設施設、工事業者との連絡調整を緊密に行い、工程等の調整について丁寧・臨機応変に対応し、施設全体の利用においてお客様への影響が最小限に留められ、仙台市の公共施設として安定した管理運営を確保できるよう努めました。</p>	
<p>【防災対策・危機管理体制に関する取組み】 指定管理者として策定した防災対策諸規定に基づき、緊急連絡網の整備など、災害時に迅速な対応を可能とするための体制づくりを進めました。 また、複数の機関が併設する施設であるため、各機関が緊密に連携しセンターの実態に即した防災管理を組織的に推進するために「防災対策委員会」を設置しました。通報連絡や初期消火、避難誘導等を相互に連携して適切に対処できるように、互いに防災管理に対する共通認識のもと協力体制を構築する目的で設置するもので、併せて、緊急時の連絡体制や防犯・防災・危機対応等についてのガイドラインを定めた「防災マニュアル」を策定しこれに基づいた職員の訓練等により、施設全体での安全管理向上に努めました。 更に、平成29年度の消防訓練については、消防法の定めに基づき3回実施しました。3回目の訓練では、仙台市宮城消防署と合同で「平成30年春季火災予防運動仙台市広瀬文化センター総合訓練」として、平成30年3月7日(水)に行いました。宮城県沖を震源とするマグニチュード8の地震が発生し、青葉区内では震度6弱を観測。センター内では、舞台機構等設備改修工事が行われ、工事関係者が激しい揺れにより工事用資材が崩れ作業員が負傷。また、舞台照明器具の転倒・落下による火災も発生しセンター職員及び工事関係者による応急手当、初期消火、避難誘導等の各種応急活動が必要となった状況を想定し、消防署職員と合同で行いました。概ね30分程度の訓練でしたが、600席の客席を有するホールとして、非常時にどのように対処すべきか、また、消防署としても地域で最も収容規模が大きいホール施設での事故・火災の際に具体的にどう動けるかを確認し、双方で多くの課題が見えてきた貴重な訓練となりました。今後も、より実態に即した状況による訓練を重ね、職員が災害や事故などの緊急事態を現実のものとして肌で感じ、有事に落ち着いてお客様の安全を確保できるよう一層訓練の質を高めていきます。</p>	
<p>【利用者増進への取組み】 利用者増進への取組みとして、わかりやすい施設案内・施設利用を目指し、リニューアルした財団ホームページを通じての文化センターの催事案内や施設概要、自主事業の紹介、また多くの写真や図面などを活用したパンフレットの配布、初めてホールを利用するお客様へわかりやすくご理解をしていただくためにホール利用にかかる附帯料金を記した「ステージ・プラン」の提供などを行い、新たなニーズの獲得に努めました。</p>	
<p>【環境に配慮した取組み】 館内はもとより、お客様にもご理解とご協力をいただきながら、施設全体の協力で、可能な限りごみの減量化に努め、分別・再利用を推進しました。具体的には、文化センター、市民センター、図書館、委託業者で構成する「ごみ減量推進委員会」を設置し、施設運営関係者全員でごみの減量や光熱水費の削減に関する取組みを進めました。産業廃棄物は、収集・運搬・処理の許可を有する業者と契約し適正に処理し、事業系廃棄物は、可燃ごみ、紙類、びん・缶・ペットボトルに分別し、可能な限りリサイクルを推進しました。また、平成29年度は、仙台市でも課題であるごみ量増加への対応として、包装プラの分別も開始し、リサイクル率60.94%を達成しました。</p>	
<p>【自主事業の実施について】 平成29年8月開催の「ひろせサマーナイトコンサート&民俗芸能フェスティバル」は、地域の民俗芸能の保存・継承を目的に、民俗芸能ステージをサマーナイトコンサートにドッキングし開催いたしました。開催日当日は、どんより曇り空でしたが、たくさんの来場者で賑わい、かわいい浴衣姿のジュニアリーダーの司会進行で、屋外特設ステージにおいてコーラスやジャズ演奏、フラダンス、そして、民俗芸能の演奏と舞いと盛りだくさんの内容でお届けいたしました。ステージ周辺では、地元町内会の屋台・子どもお楽しみコーナーの運営など、来場された地域の方々や出演者全員が楽しめた夏の夜のイベントとなりました。今後も地域の文化活動をしているの方々や地元町内会と協働で賑わいのある空間を創出し、地域活性化と地域間・世代間・住民間の交流を図っていきます。 センターが位置する仙台市西部地域は、近年、人口増加が顕著で、平成31年度には、新たに仙台市立錦ヶ丘中学校の開校を控えるなど若い世代の子育て環境の整備が進められている地域です。そのような地域環境を踏まえ、併設の広瀬図書館と協力して両施設の設置目的である地域文化の振興や、市民の教養・レクリエーション等に資すること目的に、地域の親子が楽しめる映画会を実施しました。平成29年度は、ご好評の声にお応えするため、6月に「ペット」、11月には「SING-シンガー」とユニバーサル配給映画2作品を上映しました。どちらの回も満員に近い来場者があり、施設相互のPRに繋がった映画上映会となりました。 また、平成29年度は、協力事業として「絆づくり 田んぼアート」にも参加しました。東日本大震災で見直された人とひとの「絆」をさらに深め、地域が元気になることを目指し、地域の資源である田んぼを活かした「絆づくり 田んぼアート」事業が平成25年に始まりました。主催者の「絆づくり田んぼアート実行委員会」には、市民センターや地元町内会、農業協同組合、宮城総合支所、地域協力者の皆さんが参加して地域のシンボルづくりを進めてきました。平成29年度で最終年を迎えた本事業に、文化センターもホームページの運営や田植え・稲刈りの準備、ポスター広報などを中心に運営協力を行い、地域振興に貢献しました。</p>	

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
施設利用者利用者の利用促進に努めている結果が、管内だけでなく市内全域から利用されていることから分かる通り、利用者目線合わせた施設管理がなされている。特に貸館業務だけでなく地域との連携を図り利用者の促進に取り組んでおり、主催事業においても、管内学校（広瀬高校・仙台高等専門学校広瀬キャンパス他）・ひろせ合唱の会などと企画・事業の進行・会場整理などの催事に関する内容にまで企画していただくなど、地域と一体に市民協働による事業を行っていることは高く評価出来る。また、主催事業の「第10回 ひろせサマーナイトコンサート2017 Candlelight Symphony&民俗芸能フェスティバル」の開催や併設の図書館との共催事業の映画会（ひろせワクワクシアター開催2回）を開催するなどして、地域の若い世代など利用者の拡大に努めており、文化センターの様々な可能性を図るため活動を行っている。	S